

仕えるための自由

シリーズ・パウロ

第26回

ガラテヤの信徒への手紙から

ガラテヤ教会の誕生と問題

- ガラテヤは小アジア半島（現在のトルコ）中部の地域（ルステラ・デルベ・イコニウムなど）
- パウロの宣教旅行により誕生した教会
- 偽教師による惑わし
 - ・「キリストの恵みへ招いてくださった方から、あなたがたがこんなにも早く離れて、ほかの福音に乗り換えようとしていることに、わたしはあきれ果てています。ほかの福音といっても、もう一つ別の福音があるわけではなく、ある人々があなたがたを惑わし、キリストの福音を覆そうとしているにすぎないのです。」＜1:6－7＞

律法主義

■ 律法主義とは

- 「あなたがたに一つだけ確かめたい。あなたがたが“霊”を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも、福音を聞いて信じたからですか。」＜3:2＞
- クリスマンになっても(なったら)ユダヤ教の律法を守らなければならない, という教え

■ 律法主義が広まった理由

- キリスト教会は生まれたばかりで、教えが確立していなかった
- 基盤となっていたユダヤ教の教えが色濃く残っていた
- 使徒たちを始め中心的な教師たちはユダヤ人が多かった

激怒しているパウロ

- 「わたしはあきれ果てています。」(1:6)
- 「わたしたちがあなたがたに告げ知らせたものに反する福音を告げ知らせようとするならば、呪われるがよい。」(1:8)
- 「ああ、物分かりの悪いガラテヤの人たち、だれがあなたがたを惑わしたのか。」(3:1)
- 「できることなら、わたしは今あなたがたのもとに居合わせ、語調を変えて話したい。あなたがたのことで途方に暮れているからです。」(4:20)
- 「あなたがたをかき乱す者たちは、いっそのこと自ら去勢してしまえばよい。」(5:12)

信仰による義

- けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義としていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです。＜2:16＞
- 律法によってはだれも神の御前で義とされないことは、明らかです。なぜなら、「正しい者は信仰によって生きる」からです。＜3:11＞
- あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。＜3:26＞

なぜ行いではなく信仰なのか

- 人間はどんなに努力しても自分の力では自分を救うことはできないから
 - ・ いかなる功德も修行も善行も無力である
- 自分を救うことができると考えることこそ人間の無知と罪深さの証であるから
- キリストの十字架による救いは完全であり、人間が補う必要は全くないから
 - ・ 最高の芸術には誰も手を加えられないように

与えられた自由

- 「この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由の身にしてくださったのです。だから、しっかりしなさい。奴隷の軛に二度とつながれてはなりません。」＜5:1＞
- 律法からの自由
 - ・ 律法を守らなくてもよい自由
- 罪からの自由
 - ・ 罪を犯さない自由
- 自分からの自由
 - ・ イエス・キリストという最高の師を与えられて

仕えるための自由

- 「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。」＜5:13＞
- 何のために自由にしていただいたのか
 - 再び罪の奴隷となるためではない
- 「愛によって互いに仕える」ためである
 - 「仕える」とは「奴隷となる」という意味である
 - 助けること、励ますこと、喜ばせること…